

碧南水族館においてミクロの探検隊®を開催

●博物館



参加者の様子

博物館は、1月23日(土)に「ミクロの探検隊®が水族館にやってくる!」と題して、碧南海浜水族館において出前講座を行いました。当日は、同館と日立ハイテクノロジーからの走査型電子顕微鏡2台と光学顕微鏡10台を準備しました。観察材料は、水族館らしい魚の鱗やサメの皮に加え、植物(花粉や葉)、化石(放散虫)、動物(昆虫、毛)などを用意しました。参加者は興味のある材料を各自選び、実体顕微鏡観察、試料作成、電子顕微鏡観察の順に進みます。幼児から70代の方まで計149人の参加者は、どんどん拡大する電子顕微鏡の像に驚き、引き込まれていきました。さらに、普段、肉眼では見ることでできない世界にも色々な形があり、どれも綺麗な形をしていることを体験しました。「また電子顕微鏡を操作したい」、「こんな企画をまたやって欲しい」、「ミクロの世界はとっても面白い」など多くの声が寄せられました。博物館の外での開催でしたが大いに効果があることを実感する出前講座となりました。

第48回地球教室を開催

●博物館



ハンマーを片手に鉱物をさがす参加者の様子

博物館は第48回フィールドセミナー地球教室「鉱物をさがそう!」を2月13日(土)、14日(日)に開催しました。定員数を超える90名以上の応募者があり、抽選で選ばれた小学生から中学生と保護者、一般の方の計29名が参加しました。1日目は、共催の名古屋市科学館において鉱物の観察を行いました。実際の鉱物標本を用い、結晶形や硬度、磁性などの属性を調べて特徴を把握し、最後に鉱物鑑定試験を行いました。2日目は、西尾市三田石材の許可の下、採石場において鉱物の採集を行いました。参加者は、1日目の座学で養った鑑定眼をたよりに、岩石をハンマーで割りながら鉱物を探しました。次に、蒲郡市生命の海科学館へ移動し、採集したザクロ石や電気石などを顕微鏡で観察し、それらを用いて簡単なオブジェを作りました。参加者は、自ら発見した小さな自然美を注意深く丁寧に観察していました。この事業は参加者の安全確認と活動補助のために、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けています。

第117回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する横田氏

減災連携研究センターでは1月20日(水)、減災館において第117回防災アカデミーを開催しました。今回は内閣府本府政策参与も務めている横田 崇愛知工業大学地域防災研究センター教授が「国の防災対策とその地震・津波像について」と題して講演を行い、120名が参加しました。横田氏は、1995年の阪神・淡路大震災以降の国の地震防災対策の基盤となっている、様々な地震や津波に関する想定を取りまとめに長年携わってきました。2001年の想定東海地震の見直しから始まり、東南海・南海地震の想定、東日本大震災後の南海トラフ巨大地震対策、首都直下地震対策、昨年12月に発表された南海トラフ地震による長周期地震動対策など、直接関わった様々な想定や結果の見方などについて詳しく解説がありました。地震国日本に住む我々はこうした大規模自然災害と無縁では居られません。発災前に行われている努力を十分に活かして災害軽減に努めることの重要性を改めて認識する機会となりました。